

(I - 7) 京葉都心線、汐見 B 桁の台船一括架設工法

日本鉄道建設公団東京支社越中島鉄道建設所（法人会員） 高橋和夫

汐見橋りょうは、現在建設中の京葉都心線、新木場起点 2 k 1 2 0 m ～ 2 k 3 5 0 m 間に位置する橋りょうで、東雲北運河と汐見運河を渡り、下り勾配で、更には新東京トンネルへと取り付いている。

運河部は、単純合成桁 5 連（延長 2 3 0 M）で構成されていて、この部分は、曲線半径 4 0 0 m、縦断勾配が、レベルから 3 3 / 1 0 0 0 に変更となる、曲線区間になっている。

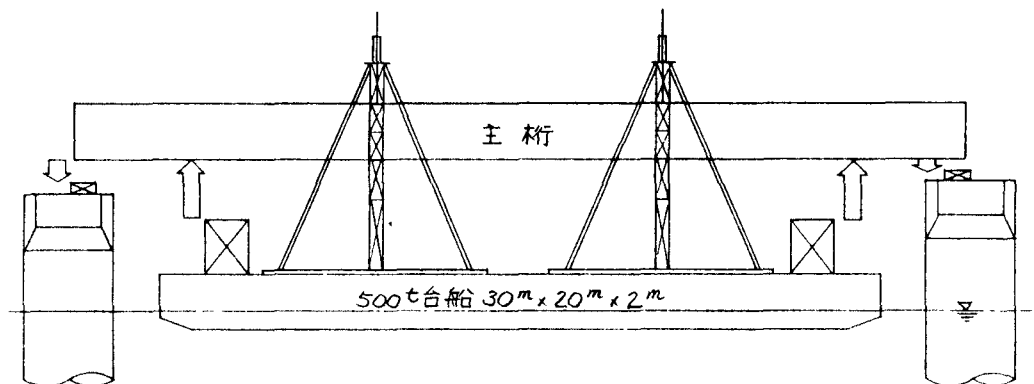
本橋りょうの主桁の架設工法は、上記の縦断勾配・曲線区間である為条件が悪い事、又、運河の水深が浅く大型クレーン台船の使用が困難な事、更に経済性等から、鋼製積台船上に門型の吊り上げ機を組立、これによって桁を吊り上げ、橋脚上へ架設する、台船一括架設工法を採用した。

主桁内訳

	桁長 (m)	桁高 (m)	桁幅 (m)	桁重量 (t)
G 1	54.00	2.70	2.30	122
G 2	40.00	2.50	2.30	70
G 3	40.00	2.50	2.30	70
G 4	56.00	2.70	2.50	140
G 5	40.00	2.50	2.30	70

主な設備及び配備

- 浜だし栈橋 — JR 越中島貨物ヤードから仮設
- 吊り上げ設備 — 500t 積台船 (30m × 10m × 2 m) 1 台
 - 門型吊り上げ機 (H 鋼組立) 2 機
 - センターホールジャッキ (100t 吊り) 4 機
- クレーン台船 — 4 0 t 吊り (吊り上げ機の組立解体) 1 台
- 引き船 — 2 隻



架設手順

